

2021 年度事業報告書

特定非営利活動法人 記録と表現とメディアのための組織[remo]

1. 事業期間

2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日

2. 事業の成果

2021年度は、昨年度に続き新型コロナウイルス感染拡大の影響により、展覧会企画の会場休館があったり、オンラインによる企画・運営を構築することを余儀なくされたりと慌ただしい1年であった。しかし後半にかけて、感染防止を徹底しながら少しずつ事業のペースを掴んでいくことができた。

AHA! [Archive for Human Activities／人類の営みのためのアーカイブ]については、昨年度からの継続・次年度への準部事業も含めて実施することができた。2015年より東京都世田谷区で展開しているプロジェクト「穴アーカイブ」の流れを踏襲した、アーツカウンシル東京及び生活工房との共催事業「移動する中心 | GAYA」が3年目に突入。特設ウェブサイトにてライターによるドキュメント連載を定期的に掲載していった。また、仙台で企画運営していた展覧会企画「わたしは思い出す」の巡回展を神戸で実施。将来的に同企画を書籍化していく後押しとなった。

ご近所映画クラブは、今年度大阪にて実施。コロナ禍で対面でワークショップを行う実践となり、ウィズコロナを求められる状況下、今後の事業実施ノウハウを再考するよい機会となった。

資金面はコロナ禍による収益の減少が著しく、支援金・補助金を受けながら事業の実施と管理費の維持に努めた。引き続きの課題として、当法人ウェブサイトの再構築、及び予算の確保と、当法人の事業の特性上、コロナ禍でのプレゼンテーション、コミュニケーションの方法、プロジェクトの進め方が課題である。

3. 事業の実施状況

<特定非営利活動に関する事業>

(1) メディア表現の発表、鑑賞機会の企画運営事業

[事業の対象者] 不特定一般

①AHA! [Archive for Human Activities／人類の営みのためのアーカイブ]

①-1

「穴アーカイブ：an-archive 世田谷の8ミリフィルムにさぐる」

[実施内容] 「穴アーカイブ：an-archive 世田谷の8ミリフィルムにさぐる」

[実施内容] 昭和30～50年代の世田谷の風景や生活がパーソナルな視点で記録された8ミリフィルムを、貴重な共有財と捉え直し、収集・公開・保存・活用していく映像アーカイブプロジェクト「穴アーカイブ」に企画制作として関わった。具体的には、1) SNSを用いた広報活動、2) ウェブサイトを活用した交流プログラム（せたがやアカカブの会、生活工房アレコレ2021、エトセトラの時間）の設計と運営を担った。1) については、とくにtwitterを活用して、ウェブサイト公開している84タイトルに関する思い出やエピソードをひろく募集し、ウェブサイトの利活用を促進する動きを活発化させた。2) については後述のとおり。

参考 URL

<https://www.setagaya-ldc.net/program/444/>

[実施場所] 世田谷文化生活情報センター生活工房

* 「せたがやアカカブの会」

[実施内容] かつての世田谷を記録した「8ミリフィルム」を手がかりに、いま・ここにいる私たちと映像との関係を結びなおす試み。時間をかけてじっくりと観ながら、紡ぎ出された記憶や想像の断片をじっくりと語り合う定例会。2021年度は昨年度に続き＜コロナ禍・特別篇＞として、対面でのワークショップは実施せず、ハガキでのアンケート方式に切り替え、遠隔開催した。

1回目

[ハガキ募集期間] 2021年3月8日～6月7日

[回答数] 2名

2回目

[ハガキ募集期間] 2021年7月8日～8月8日

[回答数] 9名

3回目

[ハガキ募集期間] 2021年8月8日～10月7日

[回答数] 10名

4回目

[ハガキ募集期間] 2021年11月8日～12月7日

[回答数] 11名

5回目

[ハガキ募集期間] 2022年1月8日～2月7日

[回答数] 6名

*生活工房アレコレ 2021 8ミリフィルム常設上映

[実施内容] 生活工房のバックヤードに眠る事々物々を小さく紹介する「生活工房アレコレ」にて、毎月8日、映像を入れ替えながら、来場者から映像をきっかけに思い出したエピソードを募った。

[実施日時] 2021年4月8日(木)～2022年4月7日(木)

※新型コロナウイルス感染症拡大抑制のため、2021年5月31日(月)まで臨時休館

[実施会場] 生活工房ギャラリー(3F)

*エトセトラの時間 見えるものと見えないものを語る会

[実施内容] 目の見える人、見えない人、障害の有無にかかわらず多様な背景を持つ人と集まって、8ミリフィルムの映像をオンラインで鑑賞。見えるもの、見えないもの、様々な視点や参加者が持ち寄った言葉を交わしながら、「エトセトラ」の時間を楽しむ。視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップと共同で本企画を実施した。

[実施日時] 2022年2月23日(水) 14:00-16:30 (オンライン)

[参加者数] 7名

①-2 「移動する中心 | GAYA」

[実施内容] 昭和の世田谷をうつした8ミリフィルムのデジタルデータを活用し、映像を介した語りの場を創出するコミュニティ・アーカイブプロジェクト。2021年度は全7回のオンライン・ワークショップを開催し、8ミリフィルムの映像を発見的に鑑賞する方法(みる、はなす、きくの3つのステップ)に取り組んだ。また活動の記録および周知を目的として、ライターによる活動のドキュメントを連載した。

*オンラインワークショップ

[実施日時] 2021年7月25日(日)、8月22日(日)、9月26日(日)、10月24日(日)、11月28日(日)、12月26日(日)、2022年1月23日(日)

[参加者数] 述べ合計 36 名

①-3 戦時中の子どもたちが書いた"平和への願い"を再びなぞる。『慰問文集』再々発行プロジェクト

[実施内容] 戦地の兵士を励ますために書かれた「慰問文」の再々発行をめざして、岐阜県美濃加茂市伊深町において関係者への取材、文献調査、複写作業を 2019 年より実施。80 年前、40 年前に綴られた『慰問文集』をとおして、戦場の父や兄に、子どもたちはどんな言葉を送ったのかを探った。2021 年度はコロナ禍のため調査・取材を中断し、刊行時期を見直した。オンラインでの編集会議を継続し、これまでの取材音源の編集や構成作業を行った。

①-4-1 企画展「わたしは思い出す 10 年間の子育てからさぐる震災のかたち」（前年度より継続）

[実施内容] 震災から 10 年の節目を迎え、震災の記憶の継承が求められる中、せんだい 3.11 メモリアル交流館に招聘され、震災というテーマを、子育てから捉え直す試みとして展覧会の企画制作として関わった。初めての出産を経験した 10 年前から育児日記をつけ始めた仙台在住のかおりさん（仮名）のご協力のもと、自身の 10 年間の日記を再読してもらい、そこで彼女が思い出した“はれたりくもったり”な日々をテキストとしてまとめ、展示した。

[日時] 2021 年 2 月 10 日（水）～7 月 11 日（日）

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3 月 26 日～5 月 11 日臨時休館

[実施場所] せんだい 3.11 メモリアル交流館

[来場者数] 6,722 名

①-4-2 巡回展「わたしは思い出す 10 年間の育児日記を再読して」

[実施内容] 7 月まで実施した仙台での展覧会に、新しい要素も加えて神戸へ巡回。ひとりの女性の育児の記録と記憶をとおして、あの地震からの 10 年を振り返る。そんな試みの成果を、当法人と会場である KIITO との両主催で実施した。

[実施場所] デザイン・クリエイティブセンター神戸 [KIITO]

* 展覧会

[日時] 2021年12月4日(土) ～ 2022年1月17日(月) 11:00～19:00

※休館日：月曜日(祝日の場合はその翌日、ただし12月27日、1月17日は開館)、12月28日(火)～1月3日(月) ・1月16日(日) 臨時休館

[来場者数] 247名

*トーク vol.1 「なぜ、読むのかー」

2021年12月5日(日) 15:00～16:30 話題提供 | 飯川晃

参加者数：16名

*トーク vol.2 「なぜ、聞くのかー」

2021年12月11日(土) 15:00～16:30 話題提供 | 清水チナツ (ビデオ通話での参加)

参加者数：8名

*トーク vol.3 「なぜ、書くのかー」

2021年12月19日(日) 15:00～16:30 話題提供 | 高森順子

参加者数：14名

*読書会 わたしは思い出す

2022年1月15日(土) 15:00～16:30

参加者数：8名

①-5 すみおれアーカイヴス 2021

[実施内容] 「地域の記憶と記録」にフォーカスを当てたプログラムとして、2016年より開始した鳥取県内のご家庭に眠る8ミリフィルムの保存と活用プロジェクト「すみおれアーカイヴス」。およそ150本(45巻)の8ミリフィルムを発掘してきた。2021年度は、これまでに収集・デジタル化された45巻の8ミリフィルム映像のタイムコードを作成する「目録づくり」WSと、ホームムービーの撮影者と被写体との関係を考察したり、参加者の生活の場所である「鳥取の風景」の過去と現在をつなぎ直す作業を、その場で行い、発表する公開ワークショップを実施した。

参照 URL：<http://hospitale-tottori.org/program/sumiore2021/>

*オリエンテーション

[実施日時] 2021年10月17日(日)

[実施場所] 旧横田医院

[参加者数] 14名

* 目録づくり WS 第一回

[実施日時] 2021年11月15日(月)

[実施場所] ことめや

[参加者数] 9名

* 目録づくり WS 第二回

[実施日時] 2021年12月13日(月)

[実施場所] ことめや

[参加者数] 7名

* 目録づくり WS 公開発表会

[実施日時] 2022年3月26日(土)

[実施場所] 旧横田医院

[参加者数] 6名

①-6 「パーソナルフィルム集積による人と地域共創デザイン:フィルムアーカイビングと
コミュニティー形成」(フィルムプロジェクト)ワークショップ企画運営

[実施内容] 徳島大学が実施するアウトリーチプログラムの8ミリフィルムアーカイブプロジェクトについての指導業務、および、ワークショップの司会進行役を担った。

[実施日時] 2021年10月22日、2022年2月14日

①-7 ドライブ・レコーダー(仮)

[実施内容] 国際芸術祭あいち2022のラーニング・プログラム「愛知と世界を知るためのリサーチ」の一環として、運転免許の《自主返納》の制度に着目したリサーチプロジェクトの企画・運営を担当。2022年夏の展覧会での発表に向け、今年度はプロジェクト説明会を実施した。

[実施日時] 2022年1月29日(土)

[実施会場] アートラボあいち

(2) ワークショップ事業

[事業の対象者] 不特定一般

① (だいたい) 3時間で映画を作る! 「ご近所映画クラブ」

[実施内容] 「ご近所映画クラブ」は、フランスの映画監督ミシェル・ Gondrier氏が数時間で企画から上映までを行う映画製作メソッドをもとにしたプログラム。

今回は、第17回大阪アジア映画祭(OAFF2022)の関連ワークショップとして実施。指導・進行を担当し、参加者が「企画し」「計画をたて」「撮影をする」の3段階を相談しながら3時間で映画をつくり、鑑賞会を実施した。

[実施日時] 2022年3月13日(日) 12:30~17:30

[実施場所] まちライブラリー@もりのみやキューズモール

[参加者数] 22名(1名は鑑賞会のみ)

(3) 情報収集、研究及び発信事業

[実施内容] 2021年度実績として任意団体、大学法人等からサーバ管理等を受託。

[事業の対象者] 不特定多数

(4) 活動支援事業

① 東京都美術館 展覧会紹介映像制作

[実施内容] 「都美セレクション グループ展 2021」、「上野アーティストプロジェクト 2021『Everyday Life: わたしは生まれなおしている』」および「コレクション展『東京都コレクションでたどる〈上野〉の記録と記憶』」の映像を制作。展示会場や美術館のYouTubeで公開された。

② 他、当法人のメディアに関するノウハウを駆使し、様々なプログラムに企画協力・記録映像制作、教材用DVD、機材提供など制作支援を行った。

4. 社員総会の開催状況

第20回通常総会

開催日時: 2021年5月19日 19:30~20:30

開催場所: NPO 法人記録と表現とメディアのための組織

※新型コロナウイルス感染防止を考慮し、テレビ会議による開催

出席者数: 正会員14名中11名(うちオンライン出席7名、委任状2名)、欠席3名

議事内容：

2020 年度事業報告および決算報告について

2021 年度事業計画および活動予算について

役員の任期満了に伴う選任について

5. 理事会の開催状況（場所は NPO 法人記録と表現とメディアのための組織）

開催日時：2021 年 7 月 1 日 11:00～11:30

議事内容：代表権を有する理事（代表理事）の選任について

以上